

褥瘡ゼロを目指したシステム戦略

創傷管理チーム

○岡本 節 田村 眞智 他

2002年10月に褥瘡対策未実施減算が告示されると同時に、当院でも褥瘡対策チームが発足し、7年が経過した。私達は、発足時より患者のフィジカルアセスメントに基づいた褥瘡発生リスクを予測して活動を開始してきた。

2007年に診療記録の完全電子カルテ化をきっかけに、褥瘡発生危険因子や褥瘡アセスメント、予防・治療計画書を患者情報システムの中で作成することを計画した結果、褥瘡管理システムが稼働となった。このシステム稼働により、全入院患者の褥瘡発生リスクが入院後24時間以内に把握できるようになり、さらに、入院中に褥瘡発生リスク状態が高くなった患者の場合も早期に把握できるようになった。このため、早い時期から予防対策を実施することが可能となり、さらに褥瘡発生にも早期の対応が可能となった。

このことから、現場からの褥瘡ゼロ戦略には、入院時に行なう患者の褥瘡発生リスク情報をいち早く入手し、早期の予防対策を実践することが有効ではないかと考える。